

S-PLUS Version 6 の概要

株式会社 数理システム 田澤 司

1.日本における S-PLUS のリリース

UNIX		PC	
V2.2	S 言語 V2		
V2.3	統計機能の向上		
V3.0	S 言語 V3 Motif 対応 GUI	V1.0(DOS)	DOS エクステンダ
V3.1	統計機能の向上	V2.0(DOS)	S 言語 V3
V3.2		V3.1(Win)	WindowsGUI 対応 S 言語 V3
V3.3		V3.2(Win)	
V3.4		V3.3(Win)	ODBC 対応
V5.0	S 言語 V4	V4.0(Win)	フル GUI 化
V5.1		V4.5(Win)	
		V2000(Win)	
V6.0	Graphlet Java 対応 GUI	V6.0(Win)	Graphlet S 言語 V4
(V6.1)		(V6.1)	

2.S-PLUS Version 6

2002 年度になり、日本語環境でもようやく UNIX/Windows で全てバージョンが揃うこととなった。Version 6 の特徴は

- Graphlets テクノロジー (Java アプレットによるグラフィックス)
- 新しい S 言語 (S Version 4) ベース
- 他システムから呼べるクラスライブラリ
 - CONNECT/C++(Windows)、CONNECT/Java (UNIX/Linux)
- Java によるフル GUI 化 (UNIX/Linux)
- 64bit 版ネイティブの S-PLUS の登場 (Solaris)

などが主要なものである。特に言語仕様が SV4 に揃ったことで、UNIX/Linux/Windows 間のプログラムの移植性が著しく高まった。この他、S-PLUS V6 に対応した StatServer V6 なども既にリリースされている。

3.S-PLUS の将来

過去を振り返ると、S-PLUS は基本的に下記の点に力を入れてきたことが分かる。おそらく、この基本的な路線は今後とも大きく変わらないだろう。

- 新しい統計解析、データ解析手法の積極的な導入

- S 言語の高生産性のため、実装のスピードが高いことによる柔軟で高品質なグラフィックス出力

- 最初の設計段階で、将来の発展を見込んだ拡張可能な設計
 - 他システムとのインターフェースの充実

- 「餅屋は餅屋」全ての機能を S-PLUS に実装させず、インターフェースの充実により、他システムの各得意分野を活用 (例えば Excel との連携など)

また、StatServer などインターネット技術を活用したサーバ製品群も今後ますます機能向上していくと思われる。データマイニングなど、今後ますます大規模なデータの利用も想定されるので、UNIX、Linux 版の 64bit 化も進展するだろう。その点、Windows 版 S-PLUS(64bit 対応)が将来のどの時点でリリースされるかが興味深い。Windows-OS ファミリ自体の (あるいは Intel プロセッサの) 64bit 化の進展状況に呼応したものになると思われる。